ピアノ学習教材における現代曲の考察

——ハチャトウリアン「少年時代の画集」について——

小木曽敏子

〔はじめに〕

20世紀に音楽する者として，同時代の音楽にも目を向けることは当然であるとしながらも演奏も鑑賞も既習の古典派やロマン派に片寄ってしまう。特に教材として与えるとなると尚更である。現代曲はそれ以前の音楽の感覚とは全く異なったものである故に難解であったり，不用意のために敬遠してしまう。しかし現在音楽している者がこれを無視しては古典も正しく理解できないまま，結局は自分の今までの学習経験だけを頼みとして，次の世代に押しつけることになってしまう。最近国内版で出版される現代曲がふえてきて入手し易くなったことはうれしいが，教育用教材としての使用には多面の配慮が必要である。なぜならば，現代曲はそれまでの耳馴れた古典派・ロマン派などの曲とは音楽的諸要素に異なった点が多いからである。

次に現代曲の特徴の主なものを書き出してみる。

- ○調　性—無調，多調，複調，12音技法などの使用
- ○音　階—旋法的，民族的，全音階的音階などの使用
- ○和　音—非和声和音，4度構成和音，不協和音，トーン・クラスター，平行和弦などの使用
  和音に機能性・指向性がない。
- ○旋　律—12音同列，断片的旋律の使用
  音列の反転・逆行・転位の扱い
- ○リズム—オスティナート，鏡像，縮少，拡大
  運動性，無機的性格，機械的性格
  従属性からの解放
- ○拍　子—変拍子（5拍子，7拍子など）の使用
  途中に異拍子の挿入
- ○フレーズ—不規則な小節数の集合体からなる
- ○ペダル—½ペダル，¼ペダルなどの使用

以上の現代曲の特徴を備えていてその上易しいと思われるハチャトウリアンの「少年時代の画集」をとりあげて，アナリーゼと奏法，ならびに旋律の面からこの曲の特徴をみてみたい。

なおハチャトウリアン（Aram Khachaturian 1903〜ソ連）ソ連生まれのアルメニア人で，ソ連の非ヨーロッパ民俗の民俗音楽を素材に，リズム感豊かな作品を書いた現代ソ連の代表的な作曲家の1人である。

〔「少年時代の画集」の解説と奏法〕

1，小さな歌　A Little Song

Andantino ♩=88　4/4　29小節　1926年作曲

17小節までを前半部，18小節以降の12小節を後半部とする2部形式。この曲の特徴はリズム進行にある。現代技法の1つであるリズムの鏡像がそれである。これは4小節（1フレーズ）の中央を軸にしてその左右の小節のリズムが対称型になっていることをいうが，2〜5小節，6〜9小節，10〜13小節，18〜21小節，26〜29小節の旋律線に6回みることができる。また左手伴奏部はクロマティックな下行を4回繰り返していて新鮮である。終止和音はハ調の第3音を抜いた5度であるが，全体からみてハ短調といえる。第3音抜きの5度の和音も現代技法の1つである。旋律も和声も現代的変化音の使用，6音使用の旋律などで感覚的にも視覚的にも，またフレーズ感も，今までの曲とは違いを感じさせる要素が多くみられる。

演奏は，序奏から9または17小節までを1フレーズにまとめて大きくとり，以下18から25小節まで一気に，そして26，27小節を十分な深い音で盛り上げると最後の小節が落ち着いた余韻の満ちたものになる。ペダルは旋律をみながら踏みかえるが，2拍に1回踏みかえる時と各拍毎に細かく踏みかえる時との2種を使い分ける必要がある。そのタイミングは前者は左手と同時かもしくは少し前，後者は左手が弾いた後に踏むとよい。

2，スケルツオ　Scherzo

Allegro moderato ♩.=66　3/8　86小節 1947年作曲

3部形式。A（1〜28小節）＋B（29〜50小節）＋A（51〜79小節）＋Coda（80〜86小節）。Aでは12小節を1フレーズにとる。17〜20小節ではリズムが2拍子（左手で）にきざまれているが，これも現代技法の1つである。演奏では，この2拍子に変わっている所に注意すること。また，21〜26小節は旋律が左手に移っているので，

右のG音がそれを消すことのないようによく音をきいてバランスよく弾くことが大切である。この曲を生かす要素の1つは$\bar{\rho}$と>の弾き方を区別することで，$\overset{(テヌート)}{\bar{\rho}}$は1音1音を粘り気味なタッチで，$\overset{(アクセント)}{>}$は少し切り気味なアクセントタッチでとしたらよい。指定テンポについて，♩.＝66では Scherzo の感じが出にくいように思われるが，曲を弾き込んでいくとやはりこのテンポで十分 Scherzo になる。そのためには，はっきりしたタッチと自由な放たれた気分で弾くことが要求されよう。

この曲には調号はなく臨時記号で書かれており（現代曲の特徴），終止はハ長調の主和音であるが，全体には短調の響きになっている。

3，お友達は病気　My Friend is unwell

Lento ♩＝58　$\frac{4}{4}$　32小節　1947年作曲

2部形式。調号はなく臨時記号で書かれているが変ホ短調とみられる。和音的な曲であるから，旋律の2分音符が1音ずつ切れて落ちてしまうことなく8小節を1フレーズに持ちこたえて弾くのがむつかしい。右手和音の上声部が旋律線を形成しているので各指のバランスを十分に計算して，浮き彫りされた旋律がきれいによどみなく流れていくことがこの曲のきめ手の1つである。もう1つ大切なことは左手の弾き方である。それぞれにある⌒，—，>と‿との4種の弾き分けをしつこい位に厳密に行なうことである。そしてこれはひとえにペダルと左手とのタイミングにある。この曲のポイントは神経質なまでの考え抜かれたペダリングにあるが，これも現代ピアノ曲の特徴の1つである。

4，誕生日のパーティー　Birthday Party

Allegro ♩.＝72　$\frac{3}{4}$　108小節　1947年作曲

1小節を1拍にとるワルツ。3部形式。

序奏4小節に続いて5～36小節がA，37～68小節がB，94～108小節が Coda。8小節のモティーフ（5～12小節）に続いて13小節から8小節はモティーフが長2度低くなって現われ，21小節からは原調に戻っている。古典的な音に耳馴れていると戸惑いがあるが，これも現代技法の1つである。調号はなく臨時記号で書かれているがホ長調。

序奏はチャイコフスキーのバレエ音楽の舞踏会の場面のファンファーレを思わせるが，次の主旋律へそのまま続いて入らずに，一旦序奏の4小節目で切ってから改めて5小節目に入るとよい。ただし，1～4小節のテンポと5小節からのテンポが異なりがちなので注意する。Aの旋律の動きが古典とは違って異様に感じるので音をとらえ違いをしないように気をつける。左手のワルツの第1拍目の$\bar{\rho}$は，目立つという感じで$\acute{\rho}\acute{\rho}\acute{\rho}$気味にと解釈したい。BのテンポはAより遅くなりがちだが同じ方がよい。そして67，68小節で十分に rit. してA′に新鮮な感じで入った方が効果的である。Bでテンポを落すと rit. ができなくなり中途半端になってしまう。Coda の98～110小節までの長い下降線が in tempo で急がず渋滞することなく柔かな音のスタカートで弾かれれば，最後のホ長調の主和音はきれいなしかも十分納得された響きとして5小節間続くことができる。また書かれているスラーはフレージングスラーではなく，レガートを示すためのものであることを間違えないようにする。

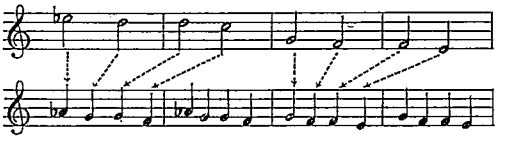
5，エチュード　Etude

Allegro moderato ♩＝92　$\frac{4}{4}$　76小節　1947年作曲

3部形式。A（1～21小節，A′22～38小節）＋B（39～51小節）＋A（52～66小節）＋Coda（67～76小節）。A′ではAを完全5度低く移している。また30小節からはやはり完全5度低くなったモティーフ（9～12小節の）が各音価を半分にした，いわゆるモティーフの縮少という型で現われている。これも現代技法の1つである（図1参照）。調号はなく，終止音も第3音を抜いたハ長調の主和音の5度とここにも現代技法が使われている。A′は完全5度下ったヘ短調になっているが，全体はハ短調。

奏法のポイントは左手のテクニックにある。現代音楽の特徴の1つである運動的な音型を終始ペダルなしで，あくまでも軽く粒の揃ったスタカートをどこまで貫ぬくことができるかにある。

図1　モティーフの縮少図（註1）



6，昔のお話　Legend

Lento ♩＝69　$\frac{3}{4}$　38小節　1947年作曲

3部形式。調号はないが，ト短調が主体となっている。A（1～8小節）のロシア的雰囲気の旋律は十分に深みのある響きで弾く。1，2，4，5小節の<が大切である。>になり易いので注意する。B（9～23小節）は生き生きした動きのあるリズムで弾くとAとの違いがはっきりして面白い。15～23小節のペダルの使用はむつかしいが楽譜通りに使った方が曲が生きてくる。Aの1，2，4，5小節では左手2音目からは$\frac{1}{4}$ペダル位が，旋律を浮き立たせてしかも左の音が濁らずに双方の音を保持することができてよい。この曲の演奏上のポイントはAとBのペダルの使い分けにある。

7，木馬　The Little Horse

Allegretto ♩=104　$\frac{2}{4}$　69小節　1947年作曲

メリーゴーラウンドの木馬というより，野原を駆ける小馬を思う。それを表わす終始止まることなく刻んでいる♫のリズムは無機的に弾くのも面白い。旋律線は2～27小節ではト短調で左手に，28～43小節ではト長調になって右手に現われる。伴奏のギャロップは右手にも左手にも出てくるが，右手はこの型に馴れていないので粒を揃えて弾くのが苦手である。中間部にかけてテンポが速くなって行き易いので注意をする。56小節の>は今までの連続してきたリズムの走りをドウドウと馬を静める時のような感じで1音1音を弾くと落ち着いてこの曲を終りにすることができる。

8，フォークダンス　In Folk Dance Style

Allegretto ma non troppo ♩.=66　$\frac{6}{8}$　79小節　1947年作曲

序奏に続いて5小節目から主題が8小節出てくる。この主題はこの他に21小節から，47小節から，そして63小節からと都合4回出てくるが，それぞれの間に8小節のB，14小節のC，再び8小節のBが挿入され，そして9小節の Coda が付いたロンド形式である。

左手のリズムは♩♪♩が♩♪♩とならないよう，むしろ♩♪♩のように弾いた方がよい。また右手の2，4小節の1拍目の>は強くというより打楽器的，小太鼓風にと解釈したい。旋律は2和音のうちのソプラノの声部にあることを強調して，動きのある楽しい明かるい音で弾く。Cの部分のうち38小節からは，旋律が右手の3和音のうち一番下の音にあることを見落しがちなので特に意識する。これを浮き出させないとCの部分がどんな音楽なのか全く不可解のままで終ってしまう。

9，バレエのひとこま

A Glimpse of the Ballet (Invention)

Adagio ♩=60　$\frac{4}{4}$　55小節　1942年曲

彼の代表作バレエ曲「ガイーヌ」の中のバレエアダジオ（音楽用語のそれでなくバレエ用語の）をもとに作られたチェロで演奏される曲だという。インベンションとあるのは主題が左手で現われ，10小節から右手で，12小節から2声にとバッハのインベンション風な書法からという意味のようである。非常に表現しにくい曲で，原曲のチェロの，ひいては弦楽的な表現でと考えてみてもとらえにくい。前半に rubato や accel。が何回も出てくるのがこの曲の特徴であるが，こうたびたび出てくると加減がむつかしい。12小節目からの2声は左右のバランスをいつも変えて弾く。旋律が左手右手と双方に交互にあるので旋律を見失うことのないよう見きわめること。最終小節のペダリングは特に細心の注意を以って弾く。即ち左手のオクターヴの Des は八分音符であるから，いつまでも尾をひくことなく♪で消えなくてはならない。しかし他の3つの音は全音符であるから持続して響いていなければならない。大きな手ならばこの譜面通りでよいが，小さな手ならば Des を弾いた直後に一旦ペダルを上半分踏みなおすと良い効果が出るのだが，その足加減は非常にむつかしい。しかしこの曲のいのちとも言える大切な1小節である。

10，フゲッタ　Fughetta

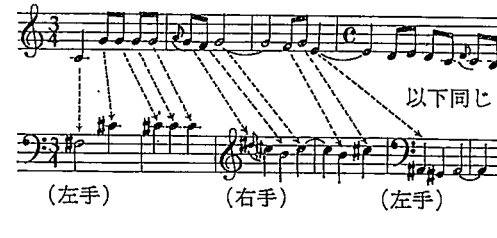
Allegro moderato ♩=112　$\frac{3}{4}$　71小節　1947年作曲

フゲッタは小さなフーガのこと。2声のフーガ。主題4小節のうちはじめの3小節は$\frac{3}{4}$拍子で4小節目だけが$\frac{4}{4}$拍子となっている。このように途中で拍子が一時的に変わるのも現代音楽の特徴の1つである。4小節の主題がはじめ左手に，次は右手にと交互に8回現われる。先ず左手でハ長調で奏された主題が5度上に右手で，またハ長調（13小節目）で左手にあったものが次には短6度上に右手で現われる。33小節目からは主題は拡大されて左→右→左→右，それが低音部と高音部と交互に受け渡されていくモティーフのリズムの拡大も現代技法の1つで，それぞれの音価が大きくなるものである。（♩は𝅗𝅥に，♪は♩に）（図2参照）

主題はいつも marcato をはっきり意識的に弾くこと。33小節からの拡大主題と47小節からの左手で奏されるテーマ及び57小節からの右手に出てくるテーマは特にぼやけ易いので注意を要する。この曲はフレージングスラーが細かく書かれているが，これは細心の注意を以て忠実に音に変えるように努力すべきである。しかし右手と左手とではスラーの切れる場所がそれぞれ異なっているので非常にめんどうでむつかしいが，この切り方によって曲の姿は全く変貌してしまうことからも，ぜひとも果されなくてはならない。70小節目の低音部のE音は，最終小節の3つのタイで示された音を十分保持するためにも，そして最後のC音，この曲集全10曲の最後の音でもあるきめの1音の効果のためにも，右手で弾くのがよい。全曲の最終音が和音でもなく，オクターヴでもなく単音でしめくくりをしようというのであるから，音の深

註2）

図2　モティーフの拡大図



さや音色など考えても考えすぎるということはない。それ程の重みのあるC音である。

〔旋律について〕

この曲集の学習で一番と戸惑うのは旋律の動き方であろう。現代曲特有の和音，拍子，リズム，調性の有無等の諸要素よりも最も異に感ずるのは旋律線である。既習概念で行くべき音へは動かずに♯や♭で思わぬ音へ進んでしまう。感覚的に聴覚も触覚も予想を狂わせられる。この進行に馴れることが最初の学習課題となろう。その異と感じさせるものは何か。旋律を形成する一要素である音程の面から，学習教材として身近にある2曲との比較でみてみたい。（すべて数値は%である。）

資料1　ハチャトウリアン「少年時代の画集」（全10曲）（1903～　ソヴィエト）

2　ブルグミューラー「25の練習曲」（内12曲）（1806～1844　ドイツ）

3　シューマン「子供の情景」（内12曲）（1810～1856　ドイツ）

音程出現頻度数は図3－1，3－2，3－3及び図4である。音程出現頻度数は3曲共2度，3度，1度，4度，5度，6度という順であるが，長短に分けてみると出現頻度順位は次のようにそれは変わる。

	Khachaturian	Burgmüller	schumann
1　位	短2度(31.0)	長2度(33.8)	長2度(36.9)
2　位	長2度(28.0)	短2度(20.6)	短2度(23.6)
3　位	1度(13.3)	1度(13.0)	1度(9.6)
4　位	短3度(9.5)	短3度(9.9)	短3度(9.3)
5　位	長3度(4.8)	4度(6.9)	4度(9.2)
6　位	4度(4.3)	長3度(6.1)	長3度(5.1)

即ち，順位1と2との交代，5，6位の交代がそれで，特に上位2つの違いは大きく曲の旋律線形成に関係してくる。

次に長音程と短音程の割合をみてみる。

	Khachaturian	Burgmüller	schumann
長音程	49.1	62.2	62.4
短音程	50.9	37.8	37.6

短音程が50%をしめる「少年時代の画集」と短音程が38%の他の2曲との違いがここにもみることができる。

また，増4・減5度及び増減音程の総数にも違いが現われている。

	Khachaturian	Burgmüller	schumann
増4減5度	2.0	0.2	0.5
増減音程総数	11.0	1.1	3.1

協和音程と不協和音程との割合については，差はみられない。

	Khachaturian	Burgmüller	schumann
協和音程	37.9	44.3	37.9
不協和音程	62.1	55.7	59.3

続継2音間の音の動きの巾の大きさからの違いもみられない。

	Khachaturian	Burgmüller	schumann
3度以内合計	86.6	83.4	84.6
4度以上合計	13.4	16.6	15.4
6度以上合計	4.0	6.1	3.9

音の上行と下行の点についてもその差はみられない。

	Khachaturian	Burgmüller	schumann
上　行	38.4	37.9	42.9
下　行	48.3	49.1	47.5
同　音	13.3	13.0	9.6

以上旋律面から3曲間の違いをみてきたが，続継2音間の上行（上昇）下行（下降）についておよび音程の大きさについてその差はみられなかった。また音程の協和と不協和の割合についてもその差は現われなかったが，これは今回の見方即ち伴奏音（和音）と切り離して旋律だけでみたからであると思われる。長音程と短音程について，特に2度に，また増音程・減音程について両者の差がみられた。ここに現代曲の大きな特性の一つをみることができよう。

今回は旋律の面から現代曲としての特徴を考察したが，もう一つの大きな要素である和声については次の機会にとりあげたい。

図３－１

（図３－１）　音程出現頻度数　（上行／下行）

「少年時代の画集」（ハチャトゥリアン）

音程＼曲	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
1　度	13.3	1.8	18.5	15.0	21.3	10.4	9.6	12.7	19.4	10.5	13.3
短２度	13.3 / 9.2	9.9 / 10.5	9.2 / 10.8	15.3 / 15.7	19.2 / 27.3	8.8 / 25.6	5.1 / 8.1	24.4 / 21.3	8.9 / 9.3	9.1 / 21.5	13.1 / 17.9
長２度	17.3 / 18.4	14.6 / 8.8	15.4 / 1.5	9.5 / 19.7	6.3 / 8.0	5.6 / 16.0	16.9 / 19.9	12.7 / 14.8	14.5 / 21.4	10.7 / 21.2	11.5 / 16.5
短３度	5.1 / 12.2	3.5 / 53.5	0 / 4.6	3.3 / 4.0	7.3 / 0	6.4 / 4.0	12.5 / 6.6	0.7 / 4.1	4.4 / 6.9	1.4 / 3.7	0.3 / 5.7
長３度	2.0 / 1.0	2.3 / 11.1	9.2 / 7.7	6.9 / 2.9	0.7 / 1.7	1.6 / 0	4.4 / 2.2	0.3 / 1.4	0.4 / 0.4	1.2 / 2.1	2.7 / 2.6
4　度	0 / 2.0	1.2 / 3.5	7.7 / 6.2	1.8 / 1.5	2.1 / 1.4	3.2 / 0	3.7 / 2.9	2.7 / 3.1	2.8 / 1.6	2.0 / 0.9	2.4 / 1.9
増4 減5 度	0 / 0	1.2 / 0	0 / 0	0 / 0.4	1.4 / 1.4	2.4 / 3.2	2.2 / 1.5	0.7 / 0	1.2 / 0.4	1.8 / 1.1	1.2 / 0.8
5　度	4.1 / 1.0	0 / 1.2	0 / 3.1	1.1 / 0.4	1.4 / 0	1.6 / 1.6	0.7 / 2.9	0.3 / 0	3.2 / 0.4	3.9 / 2.1	2.0 / 1.1
短６度	0 / 0	0 / 1.2	0 / 0	0.4 / 0.4	0 / 0	3.2 / 3.2	0 / 0	0 / 0	0.4 / 0.4	0.5 / 0.9	0.4 / 0.6
長６度	0 / 0	0 / 0	1.5 / 0	0.4 / 0.7	0 / 0	0 / 0	0 / 0.7	0 / 0	0.8 / 1.2	1.6 / 0.2	0.6 / 0.3
短７度	0 / 0	0.6 / 0	0 / 0	0 / 0.4	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0.4 / 0.4	0.2 / 0.8	0.1 / 0.3
長７度	0 / 0	0.6 / 0	0 / 3.1	0.4 / 0	0 / 0	0 / 1.6	0 / 0	0 / 0	0 / 0.4	0.4 / 0.2	0.2 / 0.3
8　度	1.0 / 0	2.9 / 0.6	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0.8	0 / 0	0.3 / 0.3	0.8 / 0	0.9 / 0.9	0.6 / 0.4
9度以上	0 / 0	2.3 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0.3	0.8 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0.4 / 0	0.3 / 0.04

図３－２

（図３－２）　音程出現頻度数　（上行／下行）

「25の練習曲」（ブルグミューラー）

音程＼曲	1	2	3	5	9	10	11	16	19	20	22	25	平均
1　度	0	7.4	9.8	13.9	25.8	14.9	15.3	4.3	51.4	24.8	2.2	3.0	13.0
短2度	9.2 / 16.8	17.9 / 8.4	8.2 / 5.7	12.3 / 14.8	8.3 / 0	3.2 / 15.6	1.8 / 5.4	12.0 / 15.2	1.4 / 8.1	10.7 / 11.1	5.6 / 9.6	16.4 / 15.7	9.5 / 11.1
長2度	9.2 / 29.0	31.6 / 11.6	13.9 / 14.8	23.0 / 32.8	9.8 / 18.9	4.5 / 27.9	1.8 / 7.2	8.7 / 21.7	5.4 / 17.6	17.9 / 16.7	9.0 / 36.5	1.1 / 28.7	10.6 / 23.2
短3度	6.1 / 11.5	0 / 5.3	9.8 / 10.7	0.8 / 0	11.4 / 0.8	6.5 / 6.5	10.8 / 9.9	6.5 / 6.5	1.4 / 0	3.0 / 0.4	2.8 / 6.2	1.9 / 5.2	4.8 / 5.1
長3度	0.8 / 1.5	0 / 2.1	4.9 / 3.3	0 / 0	5.3 / 6.8	3.9 / 5.8	7.2 / 11.7	1.1 / 2.2	1.4 / 2.7	2.1 / 0.4	5.1 / 3.9	3.0 / 0.7	3.0 / 3.1
4　度	6.1 / 0	2.1 / 4.2	5.7 / 9.0	0.8 / 0	3.8 / 1.5	3.9 / 1.3	6.3 / 6.3	6.5 / 3.3	5.4 / 5.4	2.1 / 2.1	5.1 / 3.9	3.0 / 1.9	4.0 / 2.9
増4 減5 度	1.5 / 0	0 / 0	0 / 0.8	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0.9 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0.2 / 0
5　度	3.1 / 3.1	2.1 / 1.1	0 / 0.8	0 / 0	0.8 / 1.5	1.9 / 0	2.7 / 3.6	2.2 / 1.1	0 / 0	1.3 / 3.0	2.8 / 0.6	3.0 / 2.2	1.8 / 1.6
短6度	0 / 0	0 / 0	0.8 / 0	0 / 0	0.8 / 1.5	1.3 / 0	0 / 3.6	2.2 / 3.3	0 / 0	0 / 0.4	0 / 0	0 / 0	0.4 / 0.6
長6度	0.8 / 0	1.1 / 1.1	0 / 1.6	1.6 / 0	0 / 0	0 / 0	0.9 / 0	0 / 0	0 / 0	1.7 / 0.4	1.1 / 1.7	5.6 / 1.9	1.5 / 0.7
短7度	0.8 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	1.1 / 0	0 / 0	0.4 / 0	1.7 / 0	2.2 / 0	0.7 / 0
長7度	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
8　度	0.8 / 0	2.1 / 1.1	0.8 / 0	0 / 0	0 / 0	2.6 / 0	3.6 / 0.9	1.1 / 1.1	0 / 0	1.3 / 0	1.7 / 0	1.1 / 0.4	1.3 / 0.2
9度以上	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0.8 / 2.3	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0.6 / 0	0 / 3.0	0.1 / 0.7

図3－3

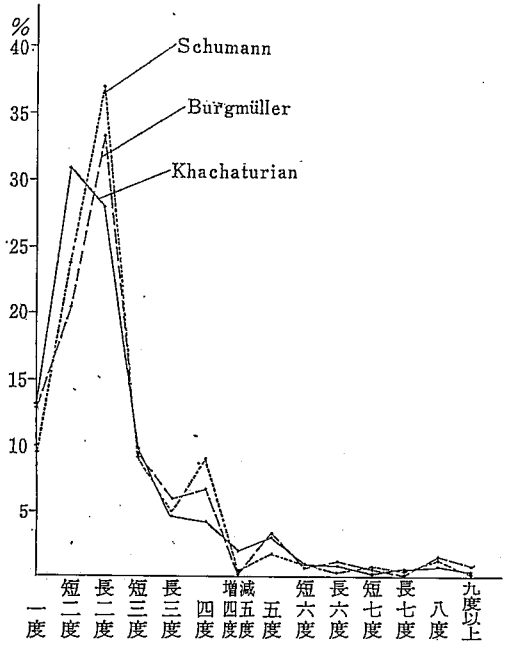
（図3－3）　音程出現頻度数　（上行／下行）

「子供の情景」（シューマン）

音程＼曲	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	13	平均
1度	2.1	8.0	0	3.6	10.3	14.1	5.8	5.2	31.7	6.9	19.6	10.6	9.6
短2度	8.5 / 8.5	16.7 / 19.3	14.3 / 17.1	7.1 / 7.1	7.2 / 6.2	14.1 / 9.9	10.7 / 9.9	8.3 / 15.6	8.3 / 13.3	14.9 / 4.0	6.5 / 15.2	17.0 / 12.8	11.3 / 12.3
長2度	8.5 / 25.5	14.7 / 26.7	28.6 / 23.8	28.6 / 23.2	9.3 / 26.8	12.7 / 29.6	11.6 / 16.5	21.9 / 16.7	13.3 / 13.3	17.7 / 8.9	10.9 / 18.1	4.3 / 19.1	16.3 / 20.6
短3度	0 / 29.8	0 / 2.0	8.6 / 0	0 / 14.3	2.1 / 4.1	0 / 12.7	8.3 / 0.8	7.3 / 0	0 / 6.7	4.0 / 13.9	1.4 / 2.9	0 / 12.8	3.1 / 6.2
長3度	0 / 0	4.7 / 0	2.9 / 1.9	0 / 3.6	0 / 0	0 / 0	10.7 / 0.8	4.2 / 2.1	1.7 / 10.0	5.0 / 4.0	0 / 1.4	4.3 / 4.3	3.2 / 1.9
4度	17.0 / 0	4.0 / 0.7	0 / 1.0	0 / 0	25.8 / 6.2	2.8 / 0	8.3 / 4.1	6.3 / 4.2	0 / 0	6.9 / 2.0	8.0 / 0	12.8 / 0	7.4 / 1.7
増4減5度	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 3.6	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	2.2 / 0	0 / 0	0.3 / 0.2
5度	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1.8	0 / 0	0 / 2.8	0 / 5.0	0 / 3.1	0 / 1.7	0 / 2.0	0 / 3.6	0 / 0	0 / 1.8
短6度	0 / 0	0 / 2.7	0 / 0	7.1 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1.7	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0.4 / 0.6
長6度	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 2.1	0 / 0	1.7 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0.3 / 0.2
短7度	0 / 0	0 / 0	0 / 1.0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 2.5	0 / 0	0 / 0	0 / 0	2.9 / 0	0 / 2.1	0.4 / 0.5
長7度	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	1.0 / 0	0 / 0	0 / 0	0.7 / 0	0 / 0	0.2 / 0
8度	0 / 0	0 / 0	0 / 1.0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1.7	0 / 4.2	0 / 0	0 / 0	0 / 5.8	0 / 0	0 / 1.4
9度以上	0 / 0	0 / 0.7	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 1.4	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0.2

図4

図4　音程出現頻度数



〔まとめ〕

現代曲を学習するには，既習概念や既習感覚を一度破壊することが要求される。従って，その教材選択は慎重に行なわれなくてはならない。譜面がやさしそうだから初歩の学習者に与えようと安易に考えてはならない。古典派やロマン派など今までの学習したものとの差があまり大きくなくて，しかも現代曲の特徴や技法を備えていることが教材を選択する上でのポイントになろう。「少年時代の画集」は，ハチャトウリアンの特長である民族的な趣きの旋律や現代曲の特徴に満ちている。即ち調号がなく臨時記号で書かれている，リズムの鏡像・縮少・拡大，複拍子，不協和音などがそれである。譜面もやさしく，同時に弾く音数が少ないし，音域もそう広くないので小さい手の人にも無理がない。しかし音楽的表現も豊かにと要求される。従ってあまり急進的でもなく，むつかしい所もないが，十分に音楽表現を行なおそうとするには，中程度の力が必要であろう。現代曲入門の教材として適しているし，また一般に演奏するにも楽しく飽きのこない格好のピアノ小曲集である。

形式感からはじまって音の動きそのものも異なる現代曲，ひいてはピアノという楽器自体に対する考え方の相違などの認識を得て，その後に再び古典派やロマン派などの音楽にもどるということは，それぞれの音楽をより豊かに理解する上には欠くべからざることである。

引用文献

註1）図1　千蔵八郎　ハチャトウリアン「少年時代の画集」
註2）図2　（楽譜の）“この曲集について”　全音楽譜

参考文献

近代和声学　松平頼則　406P　昭55.　音楽之友社
ピアノ指導法の基礎　カワイ音楽教室本部編　546P　昭44.　カワイ楽譜
音楽心理学　梅本堯夫　594P　昭53.　誠信書房